高等学校 × 家庭

家庭どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。



変わる所 6項目　解説PDF 1件

10秒でいうと

ホームプロジェクト等を各領域の「生活の課題と実践」に。家庭総合に新F領域を追加

高校家庭科も、領域を5つ（家庭総合は6つ）に再編する方向です。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、各領域の中の「生活の課題と実践」（仮称）に位置付け直す方向です。家庭総合には、新しいF領域「総合生活実践」（仮称）を設ける案です。家庭基礎と家庭総合の役割の違いもはっきりさせる方向です。家庭総合の履修年次も柔軟にする方向です。

どこが変わる？現行⇔次期（高等学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

領域（内容）の構成

現行

A 家族・家庭生活／B 衣食住の生活／C 消費生活・環境（高校はさらに D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動）

→

次期（審議まとめの案・告示前）

A 家族・家庭と生涯発達／B **生活の経営と消費生活**／C **食生活**／D **衣生活**／E **住生活**（いずれも仮称）。「家庭総合」のみ F **総合生活実践**（仮称）を加えた6領域。

P230 ※現行の構成は資料編m3 P104の図による

ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動（高校）

現行

独立した領域として
位置付けられている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

各領域の中に位置付ける「**生活の課題と実践**」（仮称）とし、
「**個人探究**（ホームプロジェクト）」（仮称）と「**協働探究**（学校家庭クラブ活動）」（仮称）を家庭基礎・家庭総合のどちらでも実施。

P224 P228

「家庭総合」の履修年次

現行

複数年次に分けて履修する場合は原則として連続する2か年。内容のCは原則として入学年次とその次の年次の2か年のうちに取り上げる。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

連続2か年の規定を見直し、
隔年での実施なども可能に。
2か年のうちに取り上げる規定は
B領域（生活の経営と消費生活）として明記。

P224 P228 ※隔年や第1〜3学年の連続履修のイメージは資料編m3 P100・P103

「家庭基礎」と「家庭総合」の違い

現行

科目の目標や学習内容に明確な差異が見いだしにくく、教科書の記述にも大きな差がない。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

家庭基礎＝生活を営み家庭や地域の生活を「支える」力、家庭総合＝**多面的**に生活を捉え家庭や地域の生活を「向上させる」力を育てる科目として趣旨を明確化。

P224 P227 ※現行側は本文の「現状の課題」として書かれている実態

見方・考え方

現行

「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等の事項を示していた。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

家庭科の**本質に焦点化**して短く示し、**小・中・高で統一**。上記の要素は「統合的な理解・総合的な発揮」の中で内容に即して示す。

P229 ※新しい見方・考え方の案文は資料編m3 P94

住まいの働き・家庭内事故の防ぎ方

現行

小学校B(6)ア(ｱ)「住まいの主な働き」、中学校B(6)ア(ｲ)「家庭内事故の防ぎ方など」で扱う。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

高校へ移管。家庭内の事故の防ぎ方は高校の「**ライフステージに応じた住生活**」で重点的に学ぶ。

P227 P232

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの高等学校の家庭の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **家庭編**
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編

学習指導要領の本文

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

もっとくわしく

家庭の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 高等学校の先生へ
資料室（高等学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。